凡舟行遇風難泊、則全身繫命于錨、戰舡海舡、有重千鈞者、錘法先成四爪、以次逐節接身、其三百斤以內者、用徑尺濶砧、安頓爐傍、當其兩端皆紅、掀去爐炭、鐵包木棍、夾持上砧、若千斤內外者、則架木爲棚、多人立其上、共持鐵練、兩接錨身、其末皆帶巨鐵圈練套、提起捩轉、咸力錘合、合藥不用黃泥、先取陳久壁土、篩細一人、頻撒接口之中、渾合方無微罅、蓋爐錘之中、此物其最巨者、

〔播磨風土記 飾磨郡〕伊和里　昔大汝命之子、火明命、心行甚强、是以父神患之、欲遁棄之、乃到因達神山、遣其子汲水、未還以前、卽發舟遁去、於是火明命、汲水還來、見船發去、卽大瞋怒、仍起風波、追迫其船、於是父神之船、不能進行、遂被打破、○中略沈石落處者、卽號沈石丘、

〔肥前風土記 神埼郡〕船帆鄉在西郡　同天皇行○景巡狩之時、○中略御船沈石四顆、存其津邊、此中一顆、高六尺、徑六尺、一顆、高四尺、徑四尺、無子婦女、就此二石、恭禱祈者、必得妊產、一顆、高四尺、徑五尺、一顆、高三尺、徑四尺、亢旱之時、就此二石、雩幷祈者、必爲雨落、

〔萬葉集 十一 古今相聞往來歌〕寄物陳思

近江海、奥榜船、重石下、藏公之、事待吾序、

〔鹿苑院殿嚴島詣記〕五日、○康應元年三月雨風はげしくなりて、あまのをしでもいとゞたゆきにや、夜中ばかりになりて、たて崎とかやいふ海中にいかりをおろして、御舟○足利義滿をとゞめらる、○中略廿四日、○中略今夜は、うしまどに御とゞまりなり、○中略夜になりて、またかみなり、あられふり、大雨風になる程に、舟のいかりをとりて、此泊のすこしひむがしのわきに、舟をなをしき、

〔新撰六帖 三〕いかり

こひにのみこがるゝ船のいかりなは思ひ去づめばくるしかりけり

〔倭名類聚抄 十一 舟具〕紉　周易注云、衣紉、女余反、又奴下反、字亦作柳、和名夫禰乃能米、所以塞舟漏也、

〔箋注倭名類聚抄 三 舟具〕按東俗、謂之万以波多、卽万岐波多之轉、万岐、眞木也、謂柏木、波多、皮也、以柏

紉